

平成27年度研究成果中間報告書《平成27年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・ 指定都市番号	9	都道府県・ 指定都市名	栃木県	研究課題番号・校種名	2 中学校
				教科・領域名	技術・家庭科 (家庭分野)
研究課題	<p>学習指導要領の指導状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から、学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p> <p>②内容「B食生活と自立」において、(2)日常食の献立と食品の選び方のア、イ、(3)日常食の調理と地域の食文化のア、イに関する基礎的・基本的な知識及び技術を身に付け、日常生活で活用する能力を育成するための指導と評価の研究開発</p> <p>⑤家族・家庭や衣食住の内容に設定した「生活の課題と実践」において、生活を工夫し創造する能力や実践的な態度を育成するための指導と評価の研究開発</p>				
学校名 (生徒数)	<p>うつのみやしりつようさいちゅうがっこう 宇都宮市立陽西中学校 (612人)</p>				
所在地 (電話番号)	〒320-0063 栃木県宇都宮市陽西町1-16 (028-622-2328)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	E-mail yosai-j@ueis.ed.jp				
研究のキーワード	小中連携 一人調理 栄養・献立 お弁当の日 家庭との連携				
研究成果のポイント	<p>○小学校内容「B 日常の食事と調理の基礎」及び中学校内容「B 食生活と自立」において段階的に指導する内容や繰り返し指導する内容などを明確にして指導計画を作成したことにより、ねらいを明確にして指導することができた。</p> <p>○一人調理、視聴覚教材や実物投影機などの ICT を効果的に活用した授業を実践したことにより、生徒一人一人が基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けることができた。</p> <p>○学校栄養士とのチームティーチングを取り入れ、学校給食と関連を図って献立の指導を工夫したことにより、生徒が栄養のバランスのよい献立を工夫することができた。</p> <p>○「食生活の課題と実践」の指導計画を工夫したり、「お弁当の日」と関連を図ったりしたことにより、家庭実践の回数が増え、学んだことを生かし、食生活の改善に取り組もうとする意欲が高まった。</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

食生活をより豊かにしようと工夫する能力と実践的な態度を育むための指導と評価の工夫

(2) 研究主題設定の理由

食生活をより豊かにしようと工夫する能力と実践的な態度を育むためには、栄養・献立・調理の関連を図るとともに、自分で献立を工夫したり、安全と衛生に留意して実際に調理したりすることができる力を育てることが必要である。

しかし、生徒の実態調査から、食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の概量に関する知識・理解や、それらを活用して栄養のバランスがよい献立を工夫すること、また、調理への関心は高いものの、調理の技術が十分に身に付いていないことが課題であることが分かった。

そこで、今次研究では、内容「B食生活と自立」において、校区の小学校と連携し、栄養や献立・調理に関する指導計画を見直すとともに、ティームティーチングやICTの効果的な活用を図るなど、個に応じた指導を充実し、基礎的・基本的な知識及び技術を確実に身に付けられるようにする。さらに、内容B(3)ウ「食生活の課題と実践」において、自らの食生活の課題を見付け、その解決を図るために問題解決的な学習を充実して、食生活をより豊かにしようとする実践的な態度を育てたいと考えた。

(3) 研究体制

校内の研究体制

- 技術・家庭教科部会
- 職員研修

校外の研究体制

- 宇河地区中学校教育研究会技術・家庭部会

(4) 1年間の主な取組

平成 27 年度	<p>4月 中学校1年生を対象に、小学校での学習の実態を把握するためのアンケートの実施・分析 小・中学校5年間を見通した指導計画の作成</p> <p>7月 栄養・献立・調理の学習に興味を持たせるための親子料理教室(生徒・保護者対象)の計画・実施</p> <p>4月～8月 基礎的・基本的な知識及び技術の確実な定着を図るために、栄養・献立・調理を関連付けたり、授業形態を工夫したりした「自分で食事を整えよう」の授業実践</p> <p>9月 ① 自分の食生活の課題を見付け、課題を解決する力を高めるために、問題解決的な学習の指導過程や言語活動、学習形態を工夫した「食生活の課題と実践」の授業実践 ② 宇河地区中学校教育研究会技術・家庭部会員への授業公開</p> <p>10月 研究の成果と課題を捉えるための事後アンケートの実施・分析</p> <p>10～12月 ① アンケート調査を基にした次年度の指導計画の改善 ② 研究成果と課題の整理、研究報告書の作成及び研究発表の準備</p> <p>11月 小学校との授業交流</p> <p>2月 研究協議会で研究成果と課題の公表</p> <p>3月 宇河地区中学校教育研究会技術・家庭部会で研究成果の発表</p>
----------------	---

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ①生徒の栄養や献立、調理に関する実態把握

②小・中学校における栄養・献立・調理に関する学習内容の系統性を明確にした指導計画の工夫

③個に応じた指導の工夫

- ・一人調理による調理の技術の確実な定着を図る指導の工夫
- ・視聴覚教材や実物投影機などの ICT を活用
- ・学校栄養士とのチームティーチングによる指導の工夫
- ・献立作成に活用できる料理カードの工夫

④家庭での実践化を図るための家庭との連携の在り方の工夫

⑤小中連携した研修会や授業交流の実施

(2) 具体的な研究活動

①生徒の栄養や献立、調理に関する実態把握

小学校における学習状況を把握するために、生徒を対象に栄養・献立・調理に関するアンケート調査を行い、その結果を分析した。

②小・中学校における栄養・献立・調理に関する学習内容の系統性を明確にした指導計画の工夫

小・中学校 5 年間を見通した指導計画を作成するために、小学校内容「B 日常の食事と調理の基礎」及び中学校内容「B 食生活と自立」で身に付けさせたい栄養・献立・調理に関する基礎的・基本的な知識及び技術を洗い出し、系統的に指導する内容、繰り返し指導する内容などを明確にした。

③個に応じた指導の工夫

- ・調理に関する知識や技術の確実な定着を図るために、すべての実習題材で「一人調理」を取り入れた。また、各調理実習で身に付けさせたい基礎的・基本的な技術の一覧表「技術定着確認表」を作成し、教師と同じ評価項目で相互評価を行わせた。さらに、作り方のポイントをまとめた視聴覚教材や実物投影機などの ICT を活用した。
- ・生徒一人一人が自分の食生活の課題を解決する献立を作成できるようにするために、学校栄養士とのチームティーチングを取り入れ、給食と関連を図って指導したり、ペアで献立を検討する際に個別指導を行ったりした。
- ・生徒が栄養のバランスのよいお弁当の献立作成をできるようにするために、お弁当に詰めるおかずの材料や分量、彩りや調理方法を一目で確認することができ、しかも、主菜：副菜が 1：2 の割合で自由に組み合わせることができる「料理カード綴」を作成し、活用した。

④家庭での実践化を図るための家庭との連携の在り方の工夫

家族の理解・協力の下、学校での学習を生かした家庭実践ができるようにするために、学校 HP（授業風景の公開等）や食育だよりに給食の写真を計画的に公開し、食に関する話題を継続的に提供した。また、家庭実践を数多く経験させるため、「食生活の課題と実践」の指導計画や長期休業中の課題の内容を工夫したり、各回にテーマを設けた「自分で作ったお弁当を持参する『お弁当の日』」を年 3 回実施したりした。

⑤小中連携した研修会や授業交流の実施

小・中学校5年間の指導計画を改善するために、家庭科と技術・家庭科担当教員が小中一貫教育研修会で意見交換をしたり、中学校教員が小学校において栄養・献立・調理に関する出前授業を行ったりした。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- 小学校内容「B 日常の食事と調理の基礎」及び中学校内容「B 食生活と自立」において段階的に指導する内容や繰り返し指導する内容などを明確にして指導計画を作成したことにより、ねらいを明確にして指導することができた。
- 一人調理、視聴覚教材や実物投影機などの ICT を効果的に活用した授業を実践したことにより、生徒一人一人が基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けることができた。
- 献立作成において学校栄養士とのチームティーチングを取り入れ、学校給食と関連を図って献立の指導をしたり、ペアで献立を検討する際に個別指導を行ったりしたことにより、生徒が栄養のバランスのよい献立を工夫することができた。
- 作成した「料理カード綴」を活用することにより、生徒一人一人がお弁当に詰めるおかずを「主菜：副菜＝1：2」の割合に適切に組み合わせ、彩りや調理方法を工夫して栄養のバランスのよい献立を作成することができた。
- 「食生活の課題と実践」の指導計画を工夫したり、「お弁当の日」と関連を図ったりしたことにより、家庭実践の回数が増え、学んだことを生かし食生活の改善に取り組もうとする意欲が高まった。
- 小・中学校が連携して研修会や授業交流を実施したことにより、小学校の児童の実態について理解を深め、系統性を考慮した指導計画について検討することができた。

(2) 課題

- 今年度は、食生活の課題と実践において、「お弁当の日」と関連させ、家庭との連携を図り、食生活をよりよく工夫し創造する能力や実践的な態度の育成に取り組んだ。今後はさらに、地域と連携し、地域の食文化の意義を理解できるようにするための新たな題材の開発が必要である。
- 食生活をより豊かにしようと工夫する能力と実践的な態度を見取る評価については十分に研究できなかった。
- 小・中学校間の系統性を重視した指導計画を作成したが、指導計画に基づいた授業実践が十分にできなかった。

(3) 研究2年目へ向けての取組

1. 地域の食文化に関心を持ち、その意義を理解できるようにするために、地域の食材や郷土料理と関連を図って食生活の課題と実践の新たな題材の開発と指導計画を工夫する。
2. 食生活をより豊かにしようと工夫する能力と実践的な態度を育むための評価方法について研究する。
3. 小・中学校の指導者同士の交流や研修の充実を図り、小中5年間を見通した指導計画を見直すとともに、授業実践を行う。